

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192200038		
法人名	株式会社 名水		
事業所名	グループホームしらかば		
所在地	虻田郡京極町字川西101番地12号		
自己評価作成日	平成28年8月10日	評価結果市町村受理日	平成28年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が心地よい生活ができるということを第一とし、理念に沿ってサービスを提供できるよう心がけている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=0192200038-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	北海道江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成28年8月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームしらかばは平成22年4月に開設し、7年目となる2ユニットの事業所です。開設時に職員が策定した理念「明るく・楽しく・個性を活かす」を掲げ、利用者の持つ力に着目し、できない部分を最小限支えていくことで共同生活での意欲や残存能力の維持向上に努めています。窓からは羊蹄山などの雄大な景色が望め、四季の移ろいを感じながら畑での収穫や近隣の温泉での入浴などを楽しんでいます。食べ物が健康を作るという経験から、利用者の病気に合わせた味付けなど工夫をした美味しい食事の提供に取り組んでおり、職員が利用者の好みを踏まえて旬の食材を使った献立をつくり調理専門職員が心を込めて調理しています。血糖値管理なども定期的に行い、訪問看護と連携して利用者の日々の健康維持に取り組んでいます。利用者は生活場面で参加意欲が高く、調理などを含めた家事をすることで役割やそれぞれの得意分野が発揮されています。コミュニケーションを通じてお互いを理解し信頼関係を深め職員と支えあう関係が築かれています。利用者の高齢化や重度化に伴い、毎日を大切にしながら必要な部分を丁寧に支援していくことで、利用者の自信と安らぎや満足を感じられるケアを目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は迷った時や困った時、理念を思い出し共有しながら日々実践につなげられるよう努力している。	開設時に職員が話し合い、事業所の理念を策定しています。パンフレットなどにも掲載して周知しています。職員の介護経験の有無や実際の介護場面にあてはめ、理念に込めた思いをかみ砕いて伝えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事参加や、地域の方との交流がある。	町内会に加入しており、利用者とともに夏祭りなどの町内会行事に参加しています。近隣の農家からの差し入れや散歩時の挨拶など、日常的な交流機会を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の外出を通じ、理解を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、意見交換をしながら連携・協力に向けて話し合いや交流を行っている。	運営推進会議は昨年度は実施がなく、今年度もまだ開催されていません。事業所では9月の開催に向けて準備を進めており、以降は定期的に開催していく予定となっています。	運営推進会議は、利用者が地域で安心して暮らしていくための様々な情報を交換し協力関係を深めていく場でもあります。今後は計画的な開催と、事業所の運営について多くの意見を聴取していくことができる場となるよう取り組んでいくことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	避難訓練・ふるさとネットワークを通じ、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターから健康体操教室開催の打診があり、利用者に合わせて実施を検討しています。また地域ぐるみで高齢者の見守りを行うふるさとネットワークにも参加しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員全体が理解し、日々取り組んでいる。(玄関は夜間のみ施錠している。)	利用者の身体状況などに合わせ、事故防止と身体拘束排除の両面から個別にケアの方法を話し合っています。ベッド柵を使用する場合も最小限で閉塞感なく有効に機能するよう心理面にも配慮しながら検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長・管理者・ケアマネージャーが虐待防止への見本となり日々防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時、直ぐに対応できる体制の充実にある。(地域包括センター)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安・疑問を聞き、十分な説明をし、理解・納得を得たうえで書面での契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見や要望などが話しだせる機会や環境づくりに取り組んでいる。	2か月おきに家族向けに「しらかばだより」を発行しています。家族にも事業所行事への参加を呼びかけ、実際の暮らしぶりを見てもらい要望を引き出すようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に話し合いをしたり、会議で職員の意見や提案を聞き、反映するよう努めている。	毎月、ユニットごと又は事業所全体の会議を行っています。管理者も引継ぎに参加し、常時意見を受けられる体制があります。休みの要望などが寄せられた際にはできる限り調整を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握し、職場の環境や整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修がある場合は、職員を受けさせ学んだことを報告してもらい取り組んでいる。(2級ヘルパー取得の援助の体制がある。)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会があった場合は、職員を受けさせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際に情報収集・共有をし、要望を聞きいれ安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見に耳を傾け、要望や希望を聞き良い関係づくりができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としているサービスをいち早く認識し、素早く対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念と基本姿勢を基に、共に共感しあう関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族がいつでも交流できる雰囲気づくりをし、関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚等への関係を密にし、本人の心の支えとなるよう支援に努めている。	親戚等の家への訪問時には送迎を行ったり、かつて住んでいた場所へドライブに出かけたりしています。家族等への電話の支援なども行い、利用者との絆が途切れないように配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が生活をしていく上でコミュニケーションを図れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があれば、環境を整えて大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の意向を聞き入れ、サービスを提供するよう努めている。	職員から話しかけ、何気ない会話の中から気持ちや希望を受け止めています。また、利用者のしぐさなどから気持ちを察しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報を収集・把握し、サービスに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の心身状態を察知し、それに対応できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見・要望を反映した介護計画を作成するよう努めている。	介護計画は半年ごとに作成しています。職員から聴取した内容を盛り込み、達成度がわかるような目標設定を行っています。利用者や職員ができるようになったことを喜びあえるような計画となるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の必要性を理解し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の訪問や、本人の外泊外出または通院・買い物等柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣との交流があり、町内会のイベントに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関を利用している。	地域の医療機関に限られており、もともとのかかりつけ医を継続して受診しています。遠方の医療機関以外は事業所で通院支援を行っています。週1回の訪問看護も受け、利用者の健康管理を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価			
			実施状況			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時に個々の状況を報告し、適切な受診を受けられるよう支援している。						
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療関係者との情報交換や相談をし、関係づくりに努めている。						
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関する指針を本人や家族に示し、同意をいただいている。(医療機関とチームで支援できるよう取り組んでいる)	重度化の際の同意は得ていますが、終末期について利用者の意向把握は行っていません。地域医療の制限があるため終末期には医師の判断で適切な医療が受けられる病院等への移行も可能となっています。	終末期について利用者と家族の意向を把握し、その上で事業所としての方針を決め説明と話し合いを行っていくことが信頼関係の構築にもつながります。利用者の高齢化や重度化に合わせ職員の教育や介護技術の向上などを含めた取り組みが期待されます。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網やマニュアルを作成し、緊急時に対応できるよう努めている。						
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、定期的な非避難訓練での確認や、消防署の指導・アドバイス等をいただき協力体制を築いている。	災害時マニュアルがあり、避難訓練を1回実施し、年度内にもう1回予定されています。冬期間の災害時の防寒対策を行う予定となっています。	避難訓練を経験していない職員がいるため、全員に対し定期的な訓練参加ができる仕組み作りが必要です。また、近隣への訓練参加の呼びかけを行っていないため、次の訓練より参加要請を行っていくことが期待されます。				
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援									
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりをよく理解した上で自尊心を傷つけない対応をするよう心がけている。	肯定され、安心して自分らしく生活ができることが利用者に伝わるよう利用者の目線に立った言葉かけを行っています。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを表現できるような関係づくりに努め、自己決定できるような問いかけや声かけを工夫している。						
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々への生活スタイルに合わせ、対応している。						
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の床屋や希望される美容室を利用し、おしゃれが楽しめるよう支援している。						

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の希望に対応し、美味しい食事を提供できるよう努めている。できる方には後片付け等の手伝いをしてもらっている。	旬の食材や栄養バランスに配慮した献立を立て、調理担当職員が出汁などの旨味を活かした食事を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食一人ひとりにあつた水分量・食事量・味付けを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに努め、できないところは介助支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとに声かけ誘導し、失敗のないよう支援している。	利用者ごとにタイミングを見計らった声かけや誘導を行ってできるだけトイレでの排泄ができるよう支援しています。利用者の希望により、ポータブルトイレも活用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量・運動量を考え、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	個人の希望にそつた時間帯に入浴できるよう心がけている。	3日おきに入浴し、見守りや入浴介助などを利用者に合わせて行っています。拒否がある場合は清拭を行い清潔に過ごせるようにしています。近隣の温泉に出かける利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンにあわせ、休息・安眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬の情報を確認しあい、薬に変更があった場合、利用者の状態の変化に気づき、医師との情報交換をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活パターンを把握し、気分転換に活かせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にそった外出や外食をしている。	事業所の畑で野菜を栽培したり、日課の散歩を楽しんでいる利用者もいます。事業所前の広場でのジンギスカンや外食、食材の買い出しなど、閉じこもりがちにならないよう工夫しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態に応じた買い物・金銭管理を見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をかけられるよう職員が支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過剰にならないような飾り付けをし、居心地よい空間になるよう努めている。	利用者がゆったり過ごせるよう居間には複数のソファや大型のテレビなどがあり、利用者が手に取れるところに食器やコーヒーなども用意されています。利用者が作った壁飾りがあり、季節の行事の写真も掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が見守りできる死角の空間を作り、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の慣れ親しんだ家具・ものを持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	クローゼットが備え付けられ、衣類などを収納することができます。入居時に使い慣れた家具を持ってきてもらうようにしており、利用者の希望を聞き安全に配慮して家具の配置を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、できることの継続ができるよう安全な環境作りに努めている。		